



大阪府済生会中津病院 サプライ部 室長
平松 治 様



業務内容

<平松サプライセンター室長>

「自立した技術職集団」の目標を掲げ、第1種滅菌技師として手術室業務が円滑になるよう看護部に所属するサプライセンターの運営を行っている。病院内の委員会等で滅菌業務の広報活動も行う。

手術器材の運用に関する情報

病床数：570 床

月間手術件数：平均 410 件【年間 4,900 件】

手術室数：9 室

所有する器材セット数：493 セット

所有する器材の本数概算：約 30,000 アイテム

年間修理事材：一般鋼製器具約 600 アイテム

<サプライセンタースタッフ>

病院直接雇用の職員 13 名で活動し、その内第1種滅菌技師 2 名、第2種滅菌技士 6 名が在籍。「エビデンスに基づいたサプライ運営」を基本方針とし、如何により確実な滅菌を行うかを考え業務を遂行している。

1. 導入前の課題

① 修理依頼手続の作業負担・複数部署の関わり :年間 600 本に及ぶ手書き伝票での修理依頼

従来、器材の修理が発生した場合は、手書き伝票を起票して調達担当部署に申請し、調達担当部署が販社を通じて刃物の研磨を行う業者に修理を依頼していた。

手書きでの起票作業が煩雑で多くの作業時間が取られた上、所有器材にはロットナンバーやシリアルナンバーの刻印が無かったため、器材の出入りが確実に把握出来ず、紛失なども発生していた。

② 同一仕様の器材のメーカー混在：購入プロセスに起因する複数メーカーからの購入

器材の購入は、需要が発生する度に複数社に見積りを取り、安価な製品を購入しているため、同一仕様の器材であっても様々なメーカーを選定する事になる。その結果、セット内で複数メーカーの同一用途の器材が混在し、統一感の無いセットとなっていた。

そのため、サプライセンターの作業の標準化が難しい状況だった。

③ **修理後の器材の品質問題：修理後、最初の使用にも関わらず切れが悪い、使用出来ない場合があった**

以前より様々な学会で問題になっている様に、当院サプライセンターにおいても、修理後の器材の品質に問題が見られることが多々あった。特に剪刀類は、修理後最初の使用にも関わらず切れが悪い、使用出来ないとクレームが出る事があった。

④ **購入予算獲得の難しさと所有器材未データ化：院内購入プロセスが煩雑、所有器材がデータ化されていなかった**

従来、手術器材の新品補充は予算化しておらず、事象が発生する度に複数社に見積りを取り、安価な製品の中から見本を確認して購入してきたが、一定金額以上になると院内購入プロセスが煩雑で予算獲得の目途が立たないこともあった。また、院内で所有器材のリストがデータ化されていなかった。

2. メンテナンスプログラム導入効果

① **修理依頼手続きの簡略化**

本プログラムに加入した事により、調達担当部署への修理依頼手続きや購入申請の手間が無くなった。現在では、エクセルシートにプルダウン方式で対象器材を選び、印刷した伝票と器材を合わせて、毎月直接販社に提出するだけの運用となった。更にエースクラップ社製品には品番が刻印されているため、簡単・確実に器材の付け合せ確認が出来るようになった。また、同社の返却期間が短く今までより返却までの時間が短縮され、器材欠品が減った事でサプライセンター内の作業も削減でき管理者として満足している。

② **使用器材のメーカー統一**

現在は、本プログラム対象品の中から統一した品

番を選択しているため、セット内、予備の器材も徐々に統一感がでており、洗浄、組立時の確認作業もスムーズに行えるようになった。

セット内で、器材が統一された事により、点検時のチェックポイントも標準化され、破損や動作異常にも敏感に気づくようになった。そのため、現在は特殊器材を除く一般外科器材は、出来る限りメーカーを統一している。

③ **修理後の器材の品質問題**

現在は、特殊器材を除いて、全ての剪刀類を本プログラムで修理に出しているため、修理後の品質問題は解決出来ている。また、本プログラムでは、修理対応となった器材に3ヶ月の修理保証が有るうえ、修理年月が刻印されており管理を行いやすい。

④ **予算化及びデータ化**

本プログラムに加入して所有器材の70%程度が本プログラムの対象となり、また定額の契約を行っているため、購入プロセスの煩雑な手続きが簡素化された。

通常、器材の購入においては、その都度対象の器材を検討する必要があるが、同社の製品は品質が安定しているため、見せ見本の取り寄せ、医師への確認作業も簡素化された。

また、修理の受払をエクセルシートを使用して取り纏めていることで、今後は器材別は勿論、診療科別、セット別のリストができ、所有器材の情報把握が可能になると考える。

3. プログラム実施後の感想

2019年11月から本プログラムに加入し、4年目を迎えている。事務作業の効率化、器材の統一化、品質の改善、予算化など、様々な問題解決に繋がり助かっている。

現状では、本プログラムで年間300本の交換また

は修理を行っている。本プログラムでは、鋼製小物に関するガイドラインに則ったチェックが行われるので、高い品質の製品が返却される。現状は多くの器材が修理不能となり、新品に交換されている。この事により、当院の器材管理が不十分であり、修理対応の範疇を超えている事が大半だと理解できた。

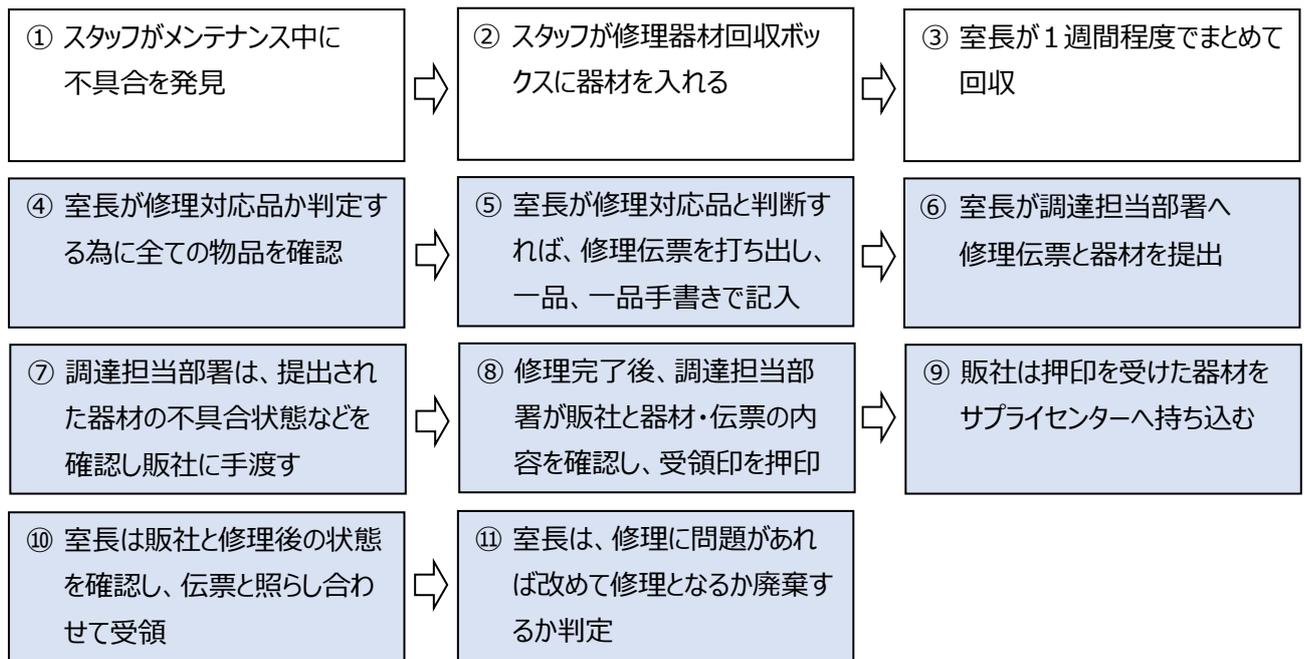
今後は、契約口数を増やして年間600本とすれば、器材更新の大半を予算化する事が可能となる。また、所有器材の品質向上を図るため、修理可能な早い段階でメンテナンスに出せるように調整を行いたい。

器材の状態と質を向上させるため、希望に応じてメーカーによる鋼製器具に関する技術指導も行って頂けるとの事で、行って頂ければ当院技術員の技術向上にも繋がり、安全な手術器材と環境を医療の現場に提供できると感じている。

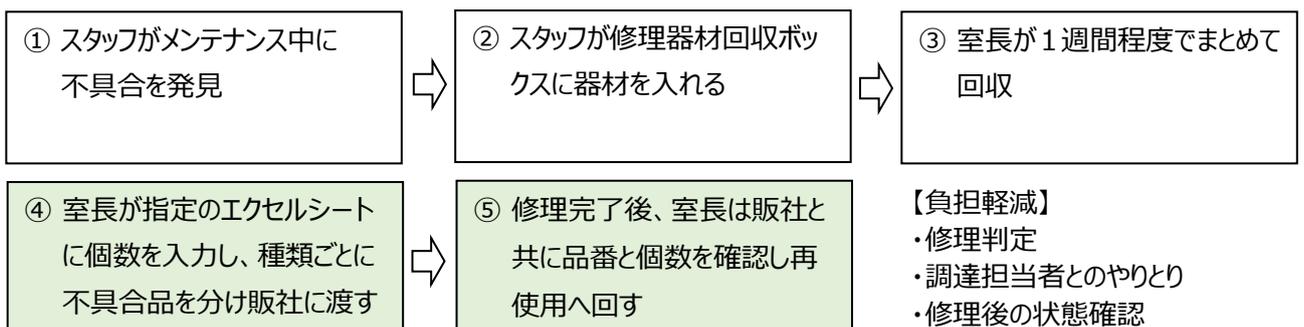
当院サプライセンターでは、所有器材数が多いことから、今後も本プログラムを通じて、器材のメンテナンス及び更新による品質向上、不揃いの器材の統一による作業の標準化及び使用感の統一を図り、より安心・安全な医療技術が提供されるよう調整を行っていききたい。

《修理依頼手続き》

メンテナンスプログラム加入前 11工程

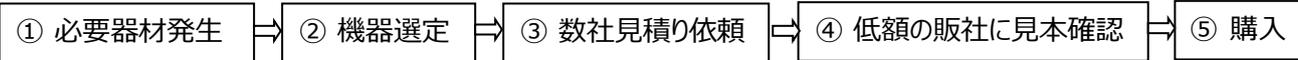


メンテナンスプログラム加入後 5工程



《メンテナンスプログラム導入前の購入フローと導入後の状況》

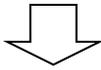
〈メンテナンスプログラム導入前の一般鋼製小物の購入フロー〉



- 必要な器材が発生すれば、同じ用途器材を選定
- 販社複数社に購入希望を伝え、数メーカーの器材の見積もりを取得
- 金額の安いメーカー数社からの見本を確認し購入決定

〈一定金額以上となった場合の予算獲得について〉

- 一定金額以上となった場合は、上記の④と⑤の購入フローの間に、委員会やプロジェクト会議などで購入検討し、妥当性があると判断されれば室長が予算申請を行う
- 申請後、予算会議で判断され、承認された案件の中で優先順位が付けられて予算獲得となる



〈メンテナンスプログラム導入およびその後〉

- 一般鋼製小物の修理依頼手続きや過去の修理履歴などを資料としてまとめて申請し、毎回検討する手間や時間に無駄が多いのでは無いかと意見がまとまり、現在は毎年予算を付けて頂いている
- メンテナンスプログラム導入後は一品一品の購入検討の必要性が無くなった
- 一般鋼製小物のメーカーがばらばらになる事が無くなったため、作業が標準化されてきて効率的になった

AESCULAP® - a B. Braun brand

販売元 **ビー・ブラウンエースクラップ株式会社**

本社：〒113-0033 東京都文京区本郷2-38-16
カスタマーサービスセンター：☎ 0120-401-741 (フリーダイヤル)
www.bbraun.jp